新世紀エヴァンゲリオン

止田　「ということで、止田です。」
卓史　「卓史です。」
止田・卓史「二人合わせて赤木・リツコです。」
赤木　「…えーと、ひょっとして毎回コレですか？」
リツコ　「いやいや、初めてだって。初めてだってことにしとこうよ。」
赤木　「初めてじゃないって。大体『しとこうよ』って言っちゃってるし。」
カイジ　「いいじゃん。どーせ誰も見て無いじゃん？」
アカギ　「爽やかにとんでもない事言うな。…つーか名前変わってるー!?」
カイジ　「ならお前が蛇なんだ！」
アカギ　「えー…というわけで、エヴァの綾波本です。」
カイジ　「金は命よりも重い。」
アカギ　「最近はＣＲエヴァ２にはまってまして。」
カイジ　「きたぜぬるりと。」
アカギ　「結構負けてるんですけど、演出見たさについついやっちゃいます。」
カイジ　「まだまだこれからよ。」
アカギ　「黙れっつーの！人がまじめにやろうってのにいつもいつも！嫌がらせか！
　つーか途中から色々混ざってる!!」
カイジ　「気分はどう？」
アカギ　「うるせーっつーの！」
カイジ　「なんだよ怒りんぼだな。朝からストレートで１０００回転したりしたの？」
アカギ　「したよ！自分で驚いたよ！一回も綾波以上にステップアップしなかったよ！」
カイジ　「ま、そんなことより今回の本ね。綾波オンリーです。つーか総綾波本？」
アカギ　「話聞けっつーのっ！１日で綾波背景３回はずしたっつーの！
　マトリエルも２回はずしたっつーの！そのうち１回は両方同時だったっつーの!!」
カイジ　「無駄話すんなよ。漫画の話しろ。」
アカギ　「漫画の前書きで漫画の話ってお前は漫画みたいな奴だな！」
カイジ　「…普通だよね？」
アカギ　「いーんだよ！もっと、ステップアップでむかつくのは、実はリツコよりも
　ミサトの方だとか、教室でリラックス３のロングが出たのに外したとか、
　綾波背景３回はずしたとか、そういう話がしたいんだよ！」
カイジ　「どんだけむかついてんだよ。パチンコやめりゃいーじゃん」
アカギ　「じゃあお前は今までに食べたパンの数を覚えてるのか？」
カイジ　「見事にカンケー無ぇーなっ！」
アカギ　「綾波背景が１回でも当たってりゃ良かったの！そういう思いを込めた漫画なの！」
カイジ　「その結果がチンコか。」
アカギ　「思い＝チンコ。世界共通の言語。」
カイジ　「そんな世界があるか。」
アカギ　「ある。」
カイジ　「どこに。」
アカギ　「立川駅南口。」
カイジ　「大胆に嘘をつくな！」
アカギ　「そういうことじゃなくて。」
カイジ　「？」
アカギ　「その世界は、みんなの心の中にあるんだよ。」
カイジ　「おーい、黄色い救急車。」
アカギ　「黙れ！お前のそういう小賢しいところを治すためのチンコなんだよ！」
カイジ　「…意味わかんねーよ！一瞬感動しかけたじゃねーか！」
アカギ　「しとけよ！あーもう！チンコんさんいらしゃーい！」
カイジ　「チン・コーハン！」
アカギ　「阪チンタイガース」
カイジ　「もう辛いよ！」
アカギ　「あー…パチンコ！」
カイジ　「うまい！」
アカギ　「まとまった！」
止田・卓史「というわけで、楽しんで頂ければ幸いです。」

2006.4.23/止田卓史

『綾波レイ……』
『あなたは私
私はあなた……』
うふふふ
くす
くす
すっ
『ね ひとつに
なりましょ？』
ふふふ
『器を満たす種
しっかりと
受け止めて』
どっ
どっ
「……」
『私たちはあなたという器を
満たすための存在……』

『ちゃんと口を開いて……』

あっ…あっ…

『陰茎の先端に舌を這わせて…そうとても上手よ』

『私の陰茎を手で握って…前後に動かして』

「舌…痛い」

『奥までくわえて』

『音が変わってきた…私…感じてるみたい……』

「…苦しい」

『ああ…これ初めての…感覚』
『何？…体の奥から駆け上ってくる』
『出る…陰茎から精液射精してる……』
『ああ…不思議なくらい大量の精液…まだ…出てる』
『味はどう？』
「おいしくない」
『…大丈夫すぐ慣れるわ』

「……」
どろぉ…
『…全部飲んで』
「…痛い」
どぴっ
どぴっ
どぴっ
どぴっ
うぉ…
んっ…
む…
『出しちゃ…ダメ』
『ほら…もっと味覚で感じて』
とろっ
あがっ…
とろぉ…
『まだまだ…たくさんでるんだから……』

『口を開けて…そう
良い子ね』

『もう覚えたでしょ？
精液の味……』

ぬゅっ

ぬゅっ

ぶる

ぶる

「…おいしくない」

お…が…

とろぉ…

とろぉ…

ごぽっ
ごぽっ

ぶる

『遠慮しないで……
たくさん飲んで』

『ほら…手伝ってあげる』

ぶる

ちゅぷっ
ちゅぷっ

ぬりゅ
ぬりゅ

がくがく

んっ…んん…

『ちゃんと味わって
飲んで……』

『私の精液…しっかりと
溜め込んで』

『それじゃ…今度はこっちから』
『こっちにもいっぱいいっぱい注いであげる……』
『両方一緒に…』
「そんなの…無理よ」
『大丈夫 その為の穴だもの』
『ほら 入った』
『でもまだ完全な一つじゃない』
『私と私とが一つになった』
『もっともっと溶け合うの』
「痛い…苦しい」
『大丈夫…すぐに慣れるから』

『こっちも』
『こっちも』
『さあ早く』
『あなたも感じている』
『みんなで出すから』
『ああ…この感覚』
『肉の悦びだけじゃない……』
『奥まで注ぎ込むから』
『心が混ざり合う感覚…快楽』
『受け止めて』
「熱いの…奥で出てる……」

『汁が絡み合いあわ立つ音』
『まだまだ足りない』
『もっと奥までかき回して……』
『私と私の境目がなくなるくらい』
『もっともっと溢れるくらい出すから』
「おなか…苦しい」
「もう…入らない」
『いいえ…まだ器は満たされていないわ』

『全て…受け止めて』
『器は…満たされたわ』
『生まれるのは
希望か絶望か……』
「おなか…苦しい」
「これ以上
…入らない」
『楽しみね』

あしたから頑張る

2006.4.23